

古稀を迎えられた宮崎道生先生



昭和63年3月、國学院大学文学部史学科日本史第四研究室にて

宮崎道生先生略歴

大正6年10月 三重県に生まれる。

昭和5年3月 京都市立錦林小学校卒業。

昭和10年3月 京都府立第一中学校卒業。

昭和13年3月 官立静岡高等学校卒業。

昭和16年3月 東京帝国大学文学部国史学科卒業。同4月大

学院に進学。中退後、同大学文学部副手を經て助手。

昭和20年10月 官立弘前高等学校教授。

昭和24年6月 弘前大学文理学部助教授。

昭和36年5月 『新井白石の研究』により文学博士。

昭和40年4月 弘前大学人文学部教授。

昭和47年6月 岡山大学法文学部教授。

昭和53年3月 岡山大学法文学部教授を辞任。

昭和53年4月 國学院大学文学部教授。

昭和47～57年 弘前大学・高知大学・宮崎大学へ出講。

昭和54～60年 中央大学文学部及び同大学院の講義・演習を

兼担。

昭和61～62年 西独ルール大学客員教授。

昭和63年3月 國学院大学教授を退職。

著・編書

『歴史と人生』

(増補版)

『新井白石序論』

(増訂版)

『新井白石』△日本歴史新書▽

(増補版)

『新井白石の研究』

(増訂版)

(第三版)

『世界史と日本の進運』

(再訂版)

『弘前市史―藩政編』(編著)

『定本折たく柴の記釈義』

(増訂版)

『新訂西洋紀聞』△東洋文庫▽(校注・解説)

『青森県の歴史』△県史シリーズ▽

『中和一由遺稿集』(編著)

『青森県近代史年表』(編著)

『新井白石の洋学と海外知識』

『新井白石の時代と世界』

『近世の日本・日本近世史』△東洋文庫▽

(内田銀蔵著 校注・解説)

『青森県の歴史と文化』

『新井白石の人物と政治』

都出版社 昭和29年

刀水書房 昭和63年

芸林会 昭和29年

吉川弘文館 昭和51年

至文堂 昭和32年

〃 昭和41年

〃 昭和33年

〃 昭和44年

〃 昭和58年

福村書店 昭和37年

刀水書房 昭和54年

弘前市 昭和38年

至文堂 昭和39年

近藤出版社 昭和60年

平凡社 昭和43年

山川出版社 昭和45年

自家版 昭和45年

青森県 昭和48年

吉川弘文館 昭和48年

吉川弘文館 昭和50年

平凡社 昭和50年

津軽書房 昭和52年

吉川弘文館 昭和52年

『増訂熊沢蕃山全集』七冊△第七冊編集・解説▽

名著出版 昭和53～55年

ベリかん社 昭和60年

吉川弘文館 昭和60年

吉川弘文館 昭和60年

近藤出版社 昭和62年

吉川弘文館 昭和63年

論文

「新井白石と朝鮮聘使問題」

「新井白石と趙泰億」

「正徳の朝鮮来聘」

「国書復号紀事批判」

「新井白石覚書」

「新井白石とその時代」

「新井白石日記を読む」

「白石の古史観再論」

「長崎貿易新令について」

「西洋紀聞と關邪集」

「西洋紀聞の成立」

「新井白石のキリシタン観」上・下

弘前大学「人文社会」二 昭和28年

東北史学会「歴史」五 昭和28年

「日本歴史」六〇 昭和28年

「芸林」四一四 昭和28年

「日本歴史」六七 昭和28年

「歴史教育」(復刊)一一四 昭和28年

「芸林」五一 昭和29年

「神道研究」三一 昭和30年

「歴史教育」三一〇 昭和30年

「歴史」一〇 昭和30年

「芸林」六一六 昭和30年

「日本歴史」九二・九三 昭和31年

弘前大学「人文社会」九 昭和31年

「歴史地理」八六―三 昭和31年

「源君美神代説について」 昭和31年

「神道学」八 昭和31年

- 「新井白石の名乗と呼名」 昭和32年
「新井白石と宝永武家諸法度」 昭和32年
「新井白石の邪馬台国観」 昭和32年
「蘭学の開創者新井白石」 昭和32年
「外国之事調書について」 昭和32年
「新井白石の世界圏認識」 昭和32年
「韃靼漂流記―白石書写―越前三国浦記」について」 昭和32年
「ローマ使節シドチの潜入事情」 弘前大学國史研究」一〇・一一合併号 昭和33年
「『折たく柴の記』について」 文部省「初等教育資料」 昭和33年
「『白石先生琉人間対』について」 弘前大学國史研究」一七 昭和34年
「白石観贅議」 日本歴史」一三六 昭和34年
「新井白石」 古川哲史・古田紹欽編 昭和34年
「典型的日本人」(誠信書房) 昭和34年
「白石と鴟外」上・下 日本歴史」一三九・一四〇 昭和35年
「『折たく柴の記』考」 弘前大学「人文社会」一九 昭和35年
「林鷲峰と新井白石」 弘前大学國史研究」二二 昭和35年
「林家史学と白石史学」 日本歴史」一四八 昭和35年
「新井白石と近衛基熙」 日本歴史」一五三 昭和36年
「林家と水戸と白石」 日本歴史」一五八 昭和36年
「白石史学と国学」 歴史」二二二 昭和36年
「新井白石と近世後期の学者文人」 弘前大学國史研究」二八 昭和36年
「新井白石と近世後半期の学界」弘前大学「人文社会」二七 昭和37年
「林家と新井白石」 歴史教育」一〇―一一 昭和37年
「新井白石と水戸学派の接触」 弘前大学「人文社会」三三 昭和39年
「新井白石の史書の文学性」 国語と国文学」四八一 昭和39年
「西洋紀聞の初稿断片」 弘前大学國史研究」三五 昭和39年
「新井白石と間部詮房」 北島正元編「江戸幕府」下 昭和39年
「白石と瑞賢」 日本歴史」二〇一 昭和40年
「二つの邪馬台国記―白石説と宣長説―」 日本学士院紀要」二三―二四 昭和40年
「新井白石と裁判」 弘前大学國史研究」三九 昭和40年
「近世合理主義の一断面―新井白石と山片蟠桃」 弘前大学「文経論叢」創刊号 昭和40年
「白石の確災」 日本歴史」二二〇 昭和41年
「『藩翰譜』考」 弘前大学「文経論叢」二―一 昭和41年
「新井白石の性格と感情」 弘前大学國史研究」四六 昭和41年
「新井白石と蘭学」 日本歴史」二二四 昭和42年
「間部詮房」 兒玉幸多編「大名列伝 第七卷」(人物往来社) 昭和42年
「白石史学と文明史学」 弘前大学國史研究」五〇 昭和43年
「新井白石の対外的関心」 森克巳博士還暦記念論文集『対外関係と社会経済』 昭和43年
「西洋紀聞の完成過程」 弘前大学「文経論叢」四―二 昭和43年
「新井白石」 新潮社『日本文学小辞典』 昭和43年
「ザビエルと新井白石」 日本歴史」二四八 昭和44年
「新井白石と海外知識」 歴史教育」一七―二一 昭和44年
「新井白石における西洋学の進展」 弘前大学國史研究」五四 昭和44年

- 「新井白石と伴信友」 「日本歴史」二六〇 昭和45年
「白石手簡」 「道徳と教育」一四三 昭和45年
「新井白石」 児玉幸多論『日本と世界の歴史一五』（学習研究社） 昭和45年
「采覧異言の流布と史的役割」 「日本歴史」二八四 昭和47年
「新井白石」 『萬有百科大辞典5 日本歴史』小学館 昭和48年
「白石の学者政治」 『日本の歴史 武家と町人』（研秀出版） 昭和48年
「熊沢蕃山と新井白石」 「日本歴史」三〇八 昭和49年
「第六代徳川家宣 第七代徳川家継」 北島正元編『徳川將軍列伝』（秋田書店） 昭和49年
「雨森芳洲と白石・徂徠」 『日本隨筆大成』第二期七卷付録（吉川弘文館） 昭和49年
「白石史学と明治の史学」 森克己博士古稀記念史学論集『対外関係と政治文化』（吉川弘文館） 昭和49年
「勝田勝年著『新井白石の学問と思想』」（書評） 昭和49年
「新井白石と文治政治」 「史学雑誌」八三一―八 昭和49年
「新井白石とヨーロッパ」 「日本歴史」三二〇 昭和50年
「折たく柴の記」の合理と非合理」 弘前大学國史研究」六二・六三合併号 昭和50年
「国文学解釈と鑑賞」五〇六 昭和50年
「読史余論」 『歴史名著』〇〇〇 「歴史読本」臨時増刊（新人物往来社） 昭和50年
「新井白石と获生徂徠」 『図説日本の歴史』月報 昭和50年

- 「新井白石と元禄時代」 「日本歴史」三三一 昭和50年
「新井白石の琉球研究」 南島史学会『南島―その歴史と文化』（図書刊行会） 昭和51年
「白石と徂徠」 「歴史地理」九三一― 昭和52年
「新井白石の世界観」 『探訪大航海時代の日本―5日本からみた異国』（小学館） 昭和53年
「芳賀矢一と黄禍論」 「国学院雑誌」七九―八 昭和53年
「熊沢蕃山の政治論小考」 「国学院大学院紀要」一七 昭和54年
「新井白石の南北アメリカ大陸観」 「日本歴史」三六八 昭和54年
「熊沢蕃山の史観と史論」 「国史学」一一〇・一一一合併号 昭和55年
「新井白石と津軽史」 弘前大学國史研究」七〇記念号 昭和55年
「白石の詩と吉川幸次郎博士」 「日本歴史」三九八 昭和56年
「熊沢蕃山と幕閣」Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、 「政治経済史学」一六四・一七六・一八八 昭和57年
「江戸時代における儒家の理解と変容」 「国学院雑誌」八四―十一 昭和58年
「熊沢蕃山と『宇佐問答』」 「国学院大学紀要」二二 昭和59年
「滝沢馬琴の蒐集校訂本『白石叢書』」 「国学院大学院文学研究科紀要」一六 昭和60年
「新井白石の古代史観」 「季刊邪馬台国」二五 昭和60年
「本居宣長と『新安手簡』」 「史学研究集録」一〇 昭和60年

◎その他に新聞寄稿多数

※(1)論文名の正漢字は当用漢字に直した。(2)副題は省略したものもある。

(3)論文には遺漏がある(特に先生の岡山大学、国学院大学時代)

(作成―荒井清明)